

教科等研究会（小学校道德部会）

令和6年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道德科授業の創造

2 研究経過

第1回			第2回		
期日 6月3日	人数 22名	場所 甲佐小学校	期日 8月5日	人数 30名	場所 甲佐小学校
第3回			第4回（県道德教育研究大会）		
期日 【低】9月5日 【中】9月5日 【高】9月3日	場所 広安西小学校 広安西小学校 甲佐小学校	授業者 中村清香教諭 木村寿枝教諭 安永智一教諭	期日 10月23日	場所 甲佐小学校	授業者 【低】河野紗季教諭 【中】宮崎貴史教諭 【高】安永智一教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

○視点1：児童が主体的に考え、他者と共に考えを深める授業展開の工夫

授業を構想する際は、内容項目・児童の実態・教材を基に本時のねらいを決定し、本時の展開を考えていくことを基本とした。授業の基本展開例では、図1に示すように、児童が「なぜだろう」「考えてみたい」と問題意識をもち考えを深めることができるような学習活動の工夫を設定し、自己の生き方につながる授業づくりを進めていった。

【工夫①】自分事として考える導入の工夫

導入場面において児童の興味・関心を引き付けることは、学びへの主体的な態度を育む上で欠かすことができない。児童が本時のねらいとする道徳的価値に気付いたり、自分事として考えるきっかけにしたりするために、実態を生かした導入の工夫を行った。

【工夫②】問題意識をもつ教材提示、発問の工夫

教材提示の場面では、学年の発達段階や教材の内容によって提示の仕方を工夫し、一人一人が問題意識をもって考えることができるようにした。教材提示後は感想交流の場を設定し、児童の発言から教材の内容理解を促し、共有された考えを生かし中心発問につなぐようにした。また、本時のねらいを基に中心発問を設定することで、教師は「なんのためにこの発問をするのか」「ねらいに迫ることはできるか」という視点で発問を捉え直すことを意識できるようにした。

【工夫③】主体的に学び、他者との考えをつなぐ学習活動の工夫

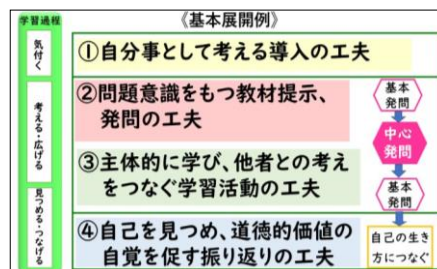
児童がこれまでの自分を見つめ更に考えを深めていくためには、自分とは違う考えに出会い、多面的・多角的に考えていく必要がある。そこで、「自分の考えを伝えたい」「友達の考えを知りたい」という思いを引き出す場の設定や教具の工夫を行った。教材の特徴や中心発問の内容等を踏まえて、効果的な活動を検討するだけでなく、本時のねらいに沿って児童の考えをつないだり広げたりできるような教師の関わりも重視した。

【工夫④】自己を見つめ、道徳的価値の自覚を促す振り返りの工夫

本時の学びが児童の多面的・多角的な見方を広げ自己の生き方につながるような終末の工夫を目指した。そこで、振り返りの視点（今までは、今日の授業では、これからは）を提示し、自分事として考えることで自己の生き方を捉え直すことができるようにした。

○視点2：多面的・多角的に考える発問・板書の工夫

発問を考える際は、図2の「4つの発問パターン」を活用した。授業で扱う発問を分類することで、教師自身が発問の意図を客観的に検討し、発問内容を精選できるようにした。発問の種類に偏りがいないか、中心発問の他に必要な発問は何かなどを検討し、本時のねらいに沿った発問構成を工夫した。また、発問場面では、問い返しの例を示し、児童の発言から考えが深まっていく過程を重視した。



【図1】 道德科授業の基本展開例

【学習活動の例】

- ・思考ツールの活用（心情曲線、心の円グラフ、心のもものさし等）
- ・ワークシートの工夫・体験活動（役割演技、動作化等）

問い返しには、考えを引き出す役割と考えをつなぐ役割がある。教師が問い返しの意図を明確にもち、適切な場面で問い返しを行っていくことで、児童が自分とは違う見方に気付いたり考えを捉え直したりすることができるようにした。

板書の工夫では、本時で学んだことが視覚的にわかる構造的な板書に取り組んだ。一例として、左側から教材理解、中心発問での児童の考え、振り返りという構成の示し方がある(図3)。教材を基に学んだ道徳的価値を児童の言葉で提示し、多様な考えがあることを全体で共有し、自分事として考える際の手立てにつなげた。

板書については縦書き・横書きにこだわらず、児童の思考の流れを整理し道徳的価値に気付いたり、自己の生き方とつなげたりするきっかけとなるような板書を目指し、実践に取り組んだ。

(2) 成果【○】と課題【●】

○本年度は、熊本県道徳教育研究大会 上益城大会に向けて、運営、研究、授業づくりに力を入れることができた。研究大会に向けて授業検討を重ね、道徳科の授業づくりについての学びを上益城道徳部会の中でも深めることができた。特に、授業展開の工夫を4つに整理したことで、ねらいに沿った学習活動の工夫を効果的に行うことにつながった。

○研究会当日は多くの参加者を迎え、授業では教師の効果的な関わりや児童の活発な学習の様子が見られた。特に、教師の問い返しの重視は、児童の多面的・多角的な考えを引き出し広げることにつながった。

●今回研究会に向けて取り組んだ取組を、教科等道徳部会全体として広げていく必要がある。

4 実践事例

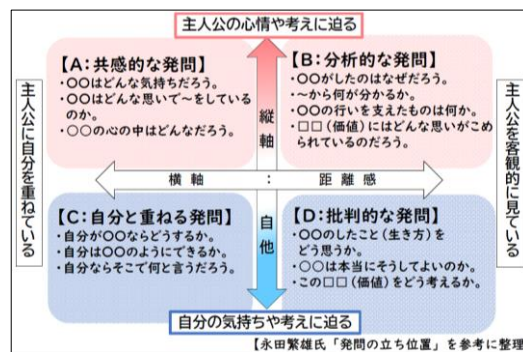
(1) 授業の概要

本授業は、県道徳教育研究大会において実施したものである。授業者、安永智一教諭が学級の実態、内容項目、教材を基にして「あきらめない心」という主題に迫る授業づくりに取り組んだ。

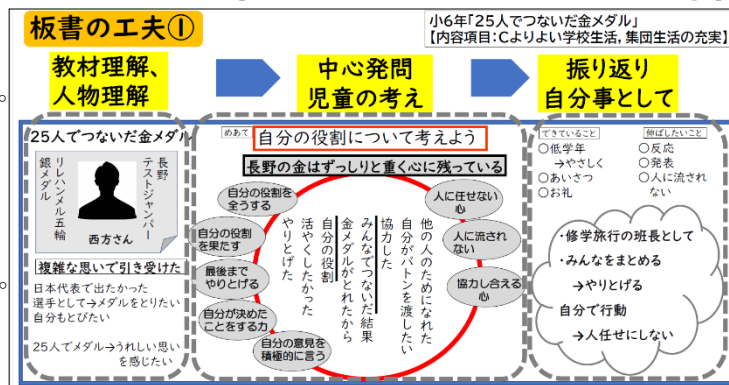
(2) 学習構想案

1 学習構想

主題名	あきらめない心 (内容項目 A (5) 希望と勇気, 努力と強い意志)	
ねらいと教材	(1)ねらい 上村さんが希望や強い意志をもって合格するまで挑戦し続けた気持ちを話し合う活動を通して、目標をもって行動することの大切さに気づき、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとする心情を育てる。 (2)教材名 上村さんのちょうせん ―ひさいい犬と共に― 出典「小学道徳 生きる力6 (日本文教出版)」	
評価の視点	評価の視点 1	評価の視点 2
	上村さんが希望や強い意志をもって挑戦し続けた理由を多面的・多角的に考えている。	登場人物の生き方を自分自身と重ね合わせながら、自分自身のよりよい生き方について考えている。
目指す児童の姿		
目標をもって行動することの大切さに気づき、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとしている児童		
主題に迫る学習課題 (本時)	本主題で働かせる見方・考え方	
「やり抜く」ために大切な心はなんだろうか？	上村さんが困難に直面しても挑戦し続けた理由を多面的・多角的に考えることを通して、目標をもって行動することの大切さについて理解し、今後の自己の生き方について考えを深めていくこと。	



【図2 授業における「4つの発問パターン」】



【図3 構造的な板書の工夫例】

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）				
<p>本主題は、小学校第5学年及び第6学年内容項目A(5)「より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」を基にしたものである。</p> <p>児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。指導に当たっては、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さに気付かせたい。さらに、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により、積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。</p>				
児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）				
■主題に関する意識の状況		主題に関わる児童の実態（アンケート32人調査）		
質問事項	とても◎	まあまあ○	あまり△	ない×
① 夢や目標がありますか。	17人	9人	6人	0人
② 物事を最後までやり抜くことは大切だと思いますか。	23人	8人	1人	0人
③ これまで、途中で諦めてしまった経験がある。	7人	11人	14人	0人
④ あると答えた人は、その出来事を教えてください。	（回答）親戚に将来の夢を話したとき、「それは無理」と言われて諦めかけた。勉強でスポーツに手が回らずやめた。			
■考察				
<p>児童の実態より、夢や目標をもっている児童が多い一方で、2割程度の児童が明確な夢や目標をもっていない現状であった。将来の夢の中には、職業だけでなく、人間性や行事等に関連した短期的なものなどがあり、夢や目標をもって行動する児童が多くいることが分かった。また、物事を最後までやり抜くことは大切だと分かっているが、半数以上がその難しさや厳しさに直面して諦めた経験があるという実態が明らかになった。家族や友達関係、習い事での指導者との関わりの中での経験談が多くあり、その体験が心に強く残っている様子も見られた。本題材を通して、粘り強く挑戦し続けることの大変さや難しさを乗り越え、くじけずに努力し続ける心情を育てていきたい。</p>				
教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）				
<p>教材「上村さんのちょうせん -ひさい犬と共に-」は、訓練士の上村さんが、被災地で生まれ、震災の影響で保護をされていた雑種犬「じゃがいも」と共に、幾度もの困難を乗り越えて災害救助犬に合格するために、くじけずにやり抜く姿が書かれている。上村さんが被災地のために、じゃがいもと共に挑戦し続ける姿を多面的・多角的に考えることを通して、夢や目標をもって行動することの大切さについて考えることができる教材である。</p> <p>本教材を活用した授業においては、いくつもの苦い経験を味わってきた上村さんが、合格するまでくじけずにやり抜くことができた理由を中心発問として考えることを通して、上村さんが困難に直面しても挑戦し続けた多様な価値観を引き出したい。</p>				

3 指導に当たっての留意点

【視点1】児童生徒が主体的に考え、他者と共に考えを深める授業展開の工夫

- 導入では、事前アンケートの結果を提示したり、途中で諦めてしまった経験を出させたりすることで、教材と自分を重ねて考えられるようにする。
- 試験に挑戦し続けている上村さんの気持ちを心情メーカーのシートに書き出す際、ロイロノートを活用して気持ちの強さをシートで表すことで、自分の考えを整理させるようにする。
- 終末では、児童から出された多様な価値観の中から「自分にとって大切にしたいこと」を選択し、今後の生き方について考えを深められるようにする。

【視点2】多面的・多角的に考える発問・板書の工夫

- 中心発問では、問い返しを行うことで、上手いかなかった上村さんの気持ちと自分の体験を重ねて考えられるようにする。
- 上村さんの心情の変化を矢印やハートを使って板書に示すことで、困難があってもくじけず努力できた上村さんの思いに着目させ、教材文の目標をもってやり抜くことの道徳的価値が多様にあることに気付けるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

上村さんが希望や強い意志をもって合格するまで挑戦し続けた気持ちを話し合う活動を通して、

目標をもって行動することの大切さに気付き、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとする心情を育てる。

(2) 展開

※【工夫①②③④】は、視点1で挙げた工夫を示している。

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 事前アンケートの結果を共有し、本時の見通しをもつ。</p> <p>①最後までやり抜くことが大切だと答えている人が多いですが、これまでどんなことをみなさんは頑張ってきましたか。 ◇応援団で、みんなと協力しながら、最後までやり抜くことができました。</p>	<p>○これまで最後までやり抜くことができなかった経験を想起させ、やり抜くことの難しさを意識させるようにする。</p> <p>○最後までやり抜くことの大切さと行動することの難しさを認識させることで、頭で分かっているにもかかわらず実際にできていない自分に気付かせる。【工夫</p>
<p>【学習課題】 「やり抜く」ために大切な心はなんだろう？</p>			
展開	30分	<p>2 教材を読み、道徳的価値について考える。</p> <p>①お話を聞いて心に残ったことや、みんなで考えたいことはありませんか。 ◇頑張っている人に非難するのはひどいと思いました。 ◇合格するまで前向きに努力し続けた上村さんとじゃがいもがすごいと思いました。</p> <p>②周りから何度も苦い言葉を言われた時、上村さんはどんな気持ちだったでしょうか。 ◇くやしい。 ◇がんばっているのになんでだろう。 ◇このまま諦めたくない。</p> <p>③いくつもの苦い経験を味わってきた上村さんが、合格するまでくじけずにやり抜くことができたのは、どうしてだろうか。 ◇被災地の人を元気付けたい。 ◇たくさんの人を助けたい。 ◇じゃがいも（仲間）がいるからがんばれる。 ◇応援してくれる人がいる。 ◇夢に向かって強い気持ちをもって行動していた。</p>	<p>○朗読前に上村さんとじゃがいもについて紹介し、「ひなん犬」や訓練士についての基本的な理解と興味・関心をもてるようにする。</p> <p>○「上村さんがじゃがいもと一緒に合格するまでの過程に注目して聞こう。」と聞く視点を示すことで、上村さんの気持ちの変化に着目して教材を聞くようにする。【工夫②】</p> <p>○上村さんが決して特別なのではなく、うなだれることもありながら、それでも何度も試験に挑戦したことに着目させる。</p> <p>○問い返しにより、上手いかない上村さんの気持ちと自分の体験とを重ねて考えられるようにする。 ★問い返し例：「もし自分が上村さんの立場なら、どんな気持ちになりますか。」</p> <p>○試験に挑戦し続けている上村さんの気持ちを心情メーカーのシートに書き出す際、気持ちの強さをシートの大ささで表すことで自分の考えを整理させるようにする。</p> <p>○交流場面では、道徳的価値の広げるために考えの共有点や相違点に着目しながら交流させる。【工夫③】</p> <p>○児童の意見を整理して板書することで、多様な道徳的価値があることに気付かせるようにする。</p>
終末	10分	<p>3 自分自身を振り返る。</p> <p>① やり抜くためには、いろいろな気持ちがありますね。みなさんは、これからどの気持ちを大きくしていきたいですか。 ◇あきらめない心 ◇夢を叶える心</p> <p>②今日の学習を振り返りましょう。 ◇今までは、あきらめることが多かったけど、今日の学習で目標をもって頑張ることによって強くなり生きたいと思いました。 ◇一人ではできないことでも、仲間と協力することで最後までチャレンジしていきたいと思いました。</p>	<p>○これまでの学習で考えたことや見つけたことを自分事として振り返ることで、今後の生活につなげるようにする。</p> <p>○ロイロノートに板書付きの振り返りシートを送り、「今までは」「今日学習して」「これからは」等の視点を示し、自分自身を振り返るようにする。</p> <p>○これまで、6年生が目標をもって努力する姿を写した写真を見せ、価値の自覚を高める。【工夫④】</p>

【評価の視点1】 上村さんが希望や強い意志をもって挑戦し続けた理由を多面的・多角的に考えている。
(方法：発言・ワークシート)

【評価の視点2】 登場人物の生き方を自分自身と重ね合わせながら、自分自身のよりよい生き方について考えている。
(方法：発言・ワークシート)